

平成29年度 第1回 池田市総合教育会議 議事録

日 時：平成29年4月17日（月）午後4時～午後5時

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：倉田市長、田渕教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員
＜事務局＞

15人

傍聴者：0人

1. 開会の挨拶

＜市 長＞

- ・平成29年度に入り2週間強が経過し、教育委員会の皆様のご尽力で新年度の授業が順調にスタートしたのではないかと思います。とりわけほそごう学園は特認校としてスタートしたほか、コミュニティスクールとしての運営協議会もまもなく第1回目が開かれるとのこと。
- ・平成28年12月議会で議会同意を得て任命させて頂いた木村教育委員さんは総合教育会議初めのご出席となるが、どうぞよろしくお願ひしたい。
- ・今日は、平成29年度の教育政策と予算、それに併せて平成30年度の教育政策の展望について、そして大阪府立池田北高校との連携に関して皆様のご意見を頂戴したい。

2. 議事

(1) 平成29年度教育政策・予算について

(2) 平成30年度教育政策の展望について

○事務局（教職員課、学校教育推進課、教育センター）から「義務教育スタートサポート事業」「いきいき学園サポート推進事業」「幼、小、中学校指導者派遣事業」「地域学習教室“はばたき塾”」「英語学力推進事業」「いじめ・不登校等トータルサポート事業」の6つの事業について説明。

＜委 員＞

- ・全体的に意欲的に新しい方向性をめざしていると思うが、既に平成28年度に5,000万円という第一歩があった上で今度は第二歩目ということになると思うが、平成28年度の実績を踏まえての縮小又は拡大などのポイントは何か。

＜事務局＞

- ・指導者派遣については、五月丘小学校でKTVスイミングスクールから水泳のプロコーチに来ていただき、先生が指導法を学べ、臨海学舎の実施にあたり非常に参考になった。泳げない子が少し泳げるようになる等、保護者からも非常に良い評価を得ている。
- ・はばたき塾については、一番のターゲットである経済的な問題を抱えておられる母子家庭のお母様からも非常に助かったとのご意見をいただいております、継続していきたい。
- ・平成28年度から始めた幼稚園の通級指導は、実際に指導者として携わった元中学校の

生徒指導の先生や小学校の校長先生は、現在緑丘小学校で通級担当をしている職員と共にあおぞら幼稚園にて様々なスキルを学びながら進めていった結果、指導者が人生経験豊富であった点も含め、指導されたご本人達も保護者の方も喜ばれていたと聞いている。

<委員>

- ・「英語学力推進事業」で言及していた「聴く」「話す」「読む」「書く」の英語の4技能だが、従来までの英語技能を判定する英検やTOEIC、TOEFLとは違うのか。

<事務局>

- ・外部英語検定の導入に向けたプロポーザルの実施に当たっては、4技能が測定できるGT ECと英検をベースとした2社が手を挙げてきている。新しい考え方のもので、特に「話す」をしっかりと測定し、先生方にもノウハウを身につけてもらう。

<委員>

- ・従前からICTの授業に取り組んでいると思うが、テクニックや手法の重視か。

<事務局>

- ・かつてICTは、パソコン操作の習熟という目的があったが、現在は、校庭のタンポポについて、スケッチの発表に替えてタブレットでおさめた写真の電子黒板への投影という、自分の表現力や問題解決能力を高めるアクティブラーニングの1つとしている。

<委員>

- ・今年度授業の内容がかなり充実している中でも、特にはばたき塾が好評とのことで、引き続き拡充して頂けたらよいと思う。
- ・平成30年度以降の展開については、今後の子ども達の成長には英語力とICTの力は欠かせないと考えることから、英語とICTの充実は非常に良いと思う。
- ・道徳の教科化については、社会で生きていく力も大事な事で、人間関係構築を苦手とする最近の風潮に鑑みれば、人との関わり方を学校で教えることも必要になると思う。
- ・法律も将来身につけておくべき知識でもあるので、法教育も必要と思う。

<事務局>

- ・道徳教育については、仲間との議論や対話を通して個々人が主体的に考え深い学びにつながるような形をめざしており、授業を通して人との関わりも構成されると考えている。

<委員>

- ・低学年のコーディネーターの配置によるサポートへの尽力は、大変評価できる。はばたき塾も公立の立場で私学に劣らない展開を期待する。
- ・英語教育の重点化は、これからの子どもたちへのグローバルな視野の養成を踏まえれば、池田は大変環境が整っていると思う。ただ英語のみならず、今後科学や文学などの様々な道への可能性があるのだから、社会や理科などにも力を入れていただきたい。

- ・タブレットを一人一人に配布した所もあると聞いた。予算的なこともあるが、今後タブレット環境が整うことに期待する。
- ・いじめ・不登校に対する平成28年度のトイボックスの活動への評価もあってか、国から大変な予算が下りてきた。これも含めた池田市の教育に対する力の入れ方について、もっと広く一般市民に知っていただきたいと思う。

<委員>

- ・池田市の教育環境は、本当に充実していると思う。ただ、いじめ・不登校などがあるといかに良い教育環境があっても生きてこない。中学校は夏休み明けぐらいが一番変化しやすいと聞く中で、施設一体型小中一貫校と小学校中学校分離型校との違いはどうか。
- ・英語学力推進はあくまでもコミュニケーション能力を図る1つであり、まずは日本語でコミュニケーションがとれることが大事だと思うので、国語にも力を入れてほしい。

<事務局>

- ・小中一貫教育については、本格実施から本年度で4年目、研究段階からでは10年目になる。現場からは、先生も子供たちも小学校時代に小中連携を通して顔と名前が一致するようになり、中学校への入学時の親密度合いが深い状態となったと聞く。また、施設一体型小中一貫校においては、中学生は柔和になり、小学生は彼らを憧憬の的としている。今後は分離型の学校にも小中の出会いの場を設けていきたい。
- ・今後、学力、いじめ、不登校等について数値的に効果が検証できれば良いと思う。平成23年の大津の中学2年生のいじめによる死亡事件以降、安倍内閣のもと平成25年の教育再生実行会議の開催を経て、いじめ対策に係る法律と道徳の教科化の二つの柱が提案された。相手の気持ちを考え、道徳的な心を養っていくことが全ての教育活動に大事な事であり、それが問題行動の解決に繋がると考え教育していく。道徳だけではなく、国語や読む力、コミュニケーション力等全ての事柄を有機的に繋げていくことも大事。
- ・いじめ・不登校等の課題に対する子どもの学習環境の整備については、文科省の「子どもみんなプロジェクト」へ参加し、子どもの生活と学びの相関関係を理論的に解明し調査と分析することによる効果を期待している。

<市長>

- ・英語だけでなく国語や他の教科の能力も大事との見識を伺った。先日の中学生議会での生徒会役員は、本職の市議員と匹敵する厳しい質問をしており、相当自己表現もできるような教育は実現している。施設一体型小中一貫教育の効果なのか。

<事務局>

- ・現在はグループ討論・発表などのアクティブラーニングといった自分たちが考える主体的な授業に変わりつつある。自分の意見を他者に伝えることを育成しようと進めている。

<市長>

- ・今後のPepperを使用したプログラミング教育の方向性はみえてきているのか。

<事務局>

- ・100台のPepperが各小学校に入ったが、特に1月に先行導入された石橋小学校では、情報教育の時間割を設け、同小の元先生が指導している。
- ・4月21日（金）には関西テレビの「みんなのニュース報道ランナー」による取材が入り、小学校のプログラミング教育というテーマの中で石橋小学校も含めて同月25日（火）の夕方に放映されると聞いている。
- ・今後はPepperの活用について悩む時期も来るだろうが、試行錯誤を経て楽しめるプログラミング授業の体制が整うよう同小の取組を発信し、他校の取組を充実させたい。

<市長>

- ・Pepperへのプログラミングについて、子どもによるものが大人のを抜き去るなど、市民が子どもたちのPepperを活用したプログラミング教育を目の当たりにして、池田市の教育の取組みが変わってきたと実感することを期待している。

<委員>

- ・ICT技術の利用は重要な事。Pepperを如何に進んで想定以上に使いこなせるような教育を子どもたちに施すことは難しいと思うが、意義深く是非チャレンジをして欲しい。

<市長>

- ・本市では、約束どおり平成28年度教育予算について平成27年度と比較して5千万円の予算増額し、平成29年度予算については更に5,000万円増額した。平成29年度が始まったばかりのこの段階での平成30年度の展望についても、予算編成としてはもはや予算の上積みはできないとはいえない。
- ・教育委員会に対しては、この2か年の成果が十分現れるような形で取り組んでいただくと共に、予算拡充の着手後一年半経過する今夏以後の平成30年度に向けた予算編成時期ぐらいから教育委員会の意志により教育政策の方向性が見えてくるようお願いする。
- ・大阪府立池田北高校（以下「池北」という。）の今年度末をもつての閉校が決まり、今年度コミュニティスクールとなったほそごう学園の学校運営協議会委員に池北の校長も入っていただいた。92名の池北最後の在校生とほそごう学園児童・生徒との小中高連携や他の取組みの可否についてご意見をいただく予定。同校の閉校後には、本市への土地譲渡や本市の仲介による他社への売却などについて大阪府と協議しつつ進めていくことになるが、そうした池北との連携等について、教育委員会のお考えをいただきたい。

<事務局>

- ・小中高合同演奏会「フレンドリーコンサート」は30年程開催している。伏尾台創生会議のプランと連動した事業展開として平成29年度実施の可能性がある活動としては、第30回記念フレンドリーコンサート、小学生版の池田ふくまるはばたき塾、地域と学校を結ぶ文化祭、池田教育フェスタ、池田市民オリンピック、音楽団体加盟団体の利用、市民による音楽練習室利用、元プロ野球選手による野球教室、池北生徒のほそごう学園

での活動、池北行事でのほそごう学園生徒の参加が挙げられる。

<委員>

- ・何かテーマなど特化された部分を持たせた上で、地域の方も来られるような様々な世代が家族で集まる場所があれば良い。

<委員>

- ・立地的に良いわけではない。体育館を活用したスポーツや音楽のイベントだけならば、常時の稼動が要求される。一般の小中高校生や大学生などを対象とした研修センターにしても、少子化を受けての学校減少に鑑みればニーズがあるかは疑問。
- ・療養型の病院はどうか。将来的な高齢化でのニーズを見込み、大勢の入院が可能であるので誘致してはどうか。ただし、学校の誘致をしたいところではある。

<委員>

- ・学校や専門学校が良いと考えるが、その他としては、ほそごう学園の児童・生徒用の寮や学校の自然学舎施設や音楽の宿泊研修施設、ほそごう地域の人生経験豊かな高齢者と子ども達が触れ合える場所、グラウンドを活用したゴルフ場、ピアノ等を活用した音楽関連施設などのほそごう学園のための施設が良いと考える。

<委員>

- ・少子高齢化に伴い教育ビジネスも競争が起こるなか、人集めは難しい。開放的な駐車場の設置が人集めとして機能する可能性はあるが、住民ニーズはあるのか。市の施設であっても、土日や深夜までのサービス提供も視野に入れる必要があるだろう。個人的には文化的、スポーツ的な特徴をつけたものが良いと考える。

<教育長>

- ・平成29年度は平成28年度事業の成果や課題を踏まえ実施している。昨年度に多くの子どもが参加したはばたき塾については、意識向上を図るため、受講申請の際に親子面接を実施する予定。幼・小・中指導者派遣事業では、低学年サポートのコーディネーターを拡充し、音楽や水泳指導など成果のあるもの拡大予定。
- ・今ご意見を賜ったICT、英語、言語力の育成、道徳などの方向性について今後施策に繋げていけるよう今年度の事業を展開していきたい。
- ・本市内には4つの府立高校と私立の宣真高校があり、小中高の連携は極めて重要なこととして既に渋高、池高、園芸高校及び宣真とは連携済だが、特段池北は、高3の92名と最終年度を盛り上げようと、教育分野での様々な連携を図りつつ、結果、跡地活用に繋がればいい。教育委員会事務局としては、池北の跡地活用は音楽、スポーツ、ふれあいの野外活動の場など教育的活用がよいと考える。

<市長>

- ・次の総合教育会議は1学期末頃に開催し、平成28年度及び平成29年度の事業検証を

行いつつ、もう一度平成30年度の事業展開を検討したい。

- ・退職教諭の配属は成果が認められるので、平成29年度の成果にも期待する。
- ・池北跡地については、多世代が集まる場所がよいと考え、その点療養型の病院としての使用には問題はない。一部を療養型病院としつつ、グラウンドと体育館は別の使用も考えられる。本市には療養型病院がないので、訴えかけていきたい。一方で、ほそごうの寮、研修センターについては、用途地域が第一種住居専用地域である加減上現状では不可能だが、用途地域を見直すことは検討可能。
- ・伏尾台の自治会では、卒業生を笑顔で歌で送り出すことやバス路線の沿道のお宅が横断幕を掲げることなどを考えていると聞く。閉校に向けてのドキュメンタリー番組の作成・放送をプロジェクトチームで模索し、伏尾台地域が注目され活性化につながり跡地利用の幅が広がるよう仕掛けていきたい。

3. 閉会